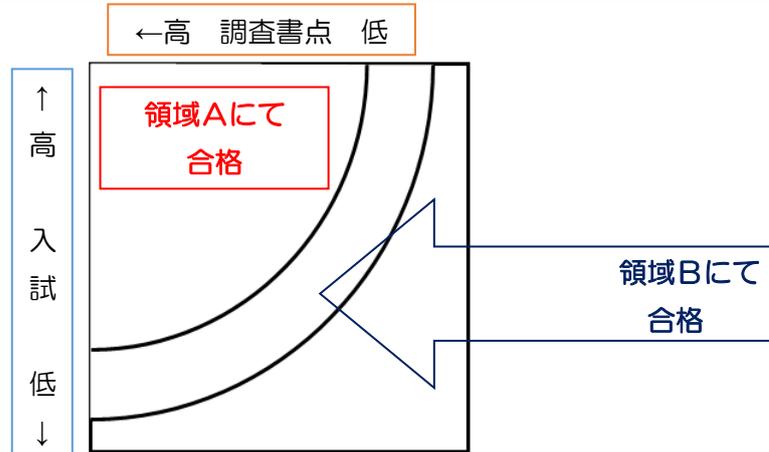


現中3生の後期入試と 次年度以降の共通選抜の違い

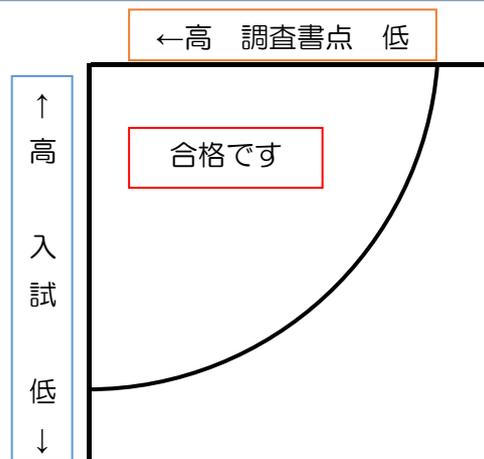
①まず、現在の（現中3生）の後期入試の情報です。



要約：1；高校は、まず調査書点（通信簿）195点満点と学力検査（入試）500点の相関をつくり
ます。**後期受験の募集人数の約80%は領域Aに入っている受験生を合格者**とします。
2；次に領域Aに入れなかった受験生を調査書の内容（生徒会長・部活の成績等）を加味して
残った募集人数の約20%を領域Bの合格者として選抜します。**←ココ重要**

つまり、後期入試は**2段階の方法で合格者**を決めます。（調査書に書かれている実績や中学校時代の活動も領域Bでは合否に関係します→**調査書の内容も見ます**ということです。）

②次年度以降、共通選抜での合格者の選抜方法



要約：上記の共通選抜の相関図を見ていただければわかるように、**領域Bはありません**。つまり、次年度以降の共通選抜は調査書点195点と学力検査500点の相関図で**合格圏内に入った受験者が合格**とされます。**中学1年から中学3年の調査書点と入試の点数のみです←ココ重要**

注意：【**情報分析能力不足で誤った共通選抜の情報を提供している塾**】があります。上記のように後期入試と共通選抜は**別物の入試**、さらに現状より**厳しい入試**ということを保護者様・新制度で入試を受ける生徒は知ってください。**情報分析能力は入試では強力な武器になるものです。**

未来予想：次年度の入試について ケーススタディー（中学生、吾妻君を例に）

登場人物（↓の吾妻くん；とある中学校2年生です）



未来予想ストーリー～パート1～

吾妻くんは、母親から薬剤師になりなさいと小さいころから洗脳されていました。その母親の思惑通り、自身も将来は薬剤師という仕事をするんだ！と思い込んでおりました（不幸なことに彼は薬剤師以外の仕事を知りませんでした）吾妻君「よし僕は、東北大学の薬学部に入るぞ！そして高校はやっぱり仙台第二高校だ！」と考えました。

吾妻君の成績（1年と2年で同じだったと仮定）

教科	評価事項	評価	学年評定	調査書点	
国語	国語に関心がある	A	5	5	実技は 2倍になります
社会	資料を活用できる	A	5	5	
数学	基礎基本を理解している	A	5	5	
理科	自然に興味がある	B	5	5	
音楽	意欲的に取り組んでいる	B	4	8	
美術	美術的感性がある	B	4	8	
保健体育	運動が素晴らしい	C	2	4	
技術・家庭	独立しての生活力がある	C	1	2	
英語	英語が話せる	A	5	5	
願書提出する点数→		平均・合計	4	47点	
		満点は	5	65点	

ポイント：吾妻君は1年生と2年生で平均4.0の調査書47点。2年間で合計94点になっています。

未来予想ストーリー～パート2～

吾妻君は中3生になって頑張りました！ 吾妻君「絶対二高に行くんだ！」
とうとう吾妻君はオール5の成績を取りました！！（やったね！吾妻君！）

中学3年生の時の調査書点はもちろん満点です！平均5そして調査書点は満点の65点

ポイント：吾妻君が仙台二高に提出する調査書点は94点+65点の159点です。平均は4.3点

仙台二高入試情報（過去の分析も重要）

- ①2018年度（現高1）前期入試受験者290名（募集96名に対し倍率約3倍）
- ②前期入試条件：調査書平均4.8以上の者または、県ベスト8位以上などの部活の実績かつ調査書平均4.3以上の者→つまり4.8以上や4.3以上の受験者が【290名】いたという事実さらに前期入試が残念だった生徒は後期入試に向かうことを考えると調査書がいかに重要か理解できます。

↓要するに

結論：吾妻君は中1・中2で平均4.0の調査書。中3にオール5を取りましたが、平均4.3なので来年度の共通選抜（【288人】募集・合格の9割）では調査書点で受験者の中で下位になるでしょう。制度変更は大変厳しいもの（現実）になります！該当するご家庭は当塾での早期の準備を提案します。